
味噌おにぎり

敬愛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

味噌おにぎり

【Nコード】

N0722T

【作者名】

敬愛

【あらすじ】

不幸な味噌おにぎりのお話。

（前書き）

昨日の味噌汁がお父さん手抜きで作ったのか味噌が沈殿していて、お、味噌おにぎりみたいな味するなと思って書きました。

杏ちゃんは味噌おにぎりが大好きな小学生です。

「ママ、味噌おにぎりは〜」

「ちゃんと作ったわよ。」

「え〜一個だけ〜」

「ごめんね。味噌が無くなっちゃたの。」

仕方なく急いでいたので杏ちゃんは味噌おにぎりを手に持って小学校に登校します。

途中近くの小さな川の流れる土手で杏ちゃんは味噌おにぎりを落としてしまいました。

コロリンコロリンコロリン 味噌おにぎりは土手の下まで落ちていきました。

すると蟻さんがたくさんたくさんやってきて味噌おにぎりに言いました。

「すみません、女王蟻様が味噌おにぎり大好物なんです。

少し持っていてもいいですか?」

味噌おにぎりは快く良いですよ、少しならと言いました。

蟻さん達が御飯粒を運んでいるうちに味噌オニギリは

角が取れて段々丸くなっていきました。

蟻さん達はどうもありがとございますと言って去っていきました。

味噌おにぎりはこれからどうしたものかと思案しているとお母さんと川沿いを散歩していた

と思われる三歳くらいの男の子が「やきゅうぼつる、やきゅうぼつる！」と言って味噌おに

ぎりをひょいとおつまみあげ川に向かって投げました。

哀れ味噌おにぎりは川に流されてバラバラになってしまいましたとさ。

(後書き)

味噌おにぎりかわいそう・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0722t/>

味噌おにぎり

2011年10月6日06時07分発行